

研修会報告

5月13日（土）に、滋賀県立大学にて2017年度第1回資格更新研修会（1）区分を開催しました。

今回の研修会では、「学校における援助要請カウンセリングー助けを求める力を育むー」と題し、大阪教育大学大学院学校教育講座の水野治久教授にご講演いただきました。



子ども、保護者、教師の被援助志向性（助けを求める意識）をどう高めていくか、援助要請カウンセリングの基本について学ぶことを目的に本研修会を実施しました。

前半は、被援助志向性と援助要請の概念や、被援助志向性や援助要請態度を高める要因について解説していただきました。また、水野先生の小中学校における実践から、様々な問題行動を示す子どもたちは、愛着の問題や発達の偏り、支配・被支配といった関係に陥りやすくヨコの関係に弱さがある、といった背景を抱えていることが多く、支援者は様々な側面に配慮する必要があることを説明していただきました。

後半は、水野先生の実践事例をもとにグループワークを行いました。参加者が4～5人のグループに分かれ、自分が相談員だとしたら、どのように援助を進めるか、グループで議論しました。グループで議論した内容を全体で共有した後、水野先生が実際



に行った援助について説明していただき、子どもや保護者の援助要請スタイルに応じた援助について、具体的に学ぶことができました。水野先生の巧みな進行により、参加者も活発に意見を出すことができ、大変活気のあるグループワークとなりました。

援助要請カウンセリングの実際について、具体的な事例を通して学ぶことができ、乳幼児から成人期までいずれの臨床現場においても、今後の実践につながる大変充実した研修会になりました。

今回は、滋賀支部25名、他支部5名の計30名の参加がありました。次回の研修会は7月30日（日）に開催の予定です。積極的なご参加をお待ちしています。

多様なテーマにかかわる研修を今後も企画してまいります。臨床発達心理士としての資質を高め、県内の発達支援をさらに充実させていきましょう。

日本臨床発達心理士会 滋賀支部